

口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベル3（入山規制）が継続＞

昨日（22日）、九州地方整備局の協力により上空からの観測を実施しました。10月21日から噴火が発生していますが、これまでの観測と比べて、新岳火口周辺の地形等に特段の変化は認められませんでした。

【防災上の警戒事項等】

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾及び火砕流²⁾に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1～2）

昨日（22日）、九州地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、新岳火口から火山灰を含む噴煙が上がっているのを確認しました。10月21日から噴火が発生していますが、2018年8月17日及び27日に実施した観測と比べて、新岳火口周辺の地形等に特段の変化は認められませんでした。また、降灰の痕跡は認められませんでした。

赤外熱映像装置³⁾による観測では、新岳火口及び新岳火口西側割れ目付近で引き続き高温の熱異常域が認められました。

観測中は、火山ガスによる弱い臭気が認められました。

- 1) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 2) 火砕流とは、火山灰や岩塊、火山ガスや空気が一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十kmから時速百km以上、温度は数百℃にも達することがあります。
- 3) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



図1 口永良部島 新岳火口及び西側斜面の状況 (2018年10月22日)

- ・新岳火口から火山灰を含む噴煙が上がっているのを確認しました。
- ・2018年8月17日及び27日に実施した観測と比べて、新岳火口周辺の状況に噴火による特段の変化は認められませんでした。
- ・降灰の痕跡は認められませんでした。
- ・赤外熱映像装置による観測では、新岳火口及び新岳火口西側割れ目付近で引き続き高温の熱異常域（黄破線）が認められました。
- ・観測中は、火山ガスによる弱い臭気が認められました。

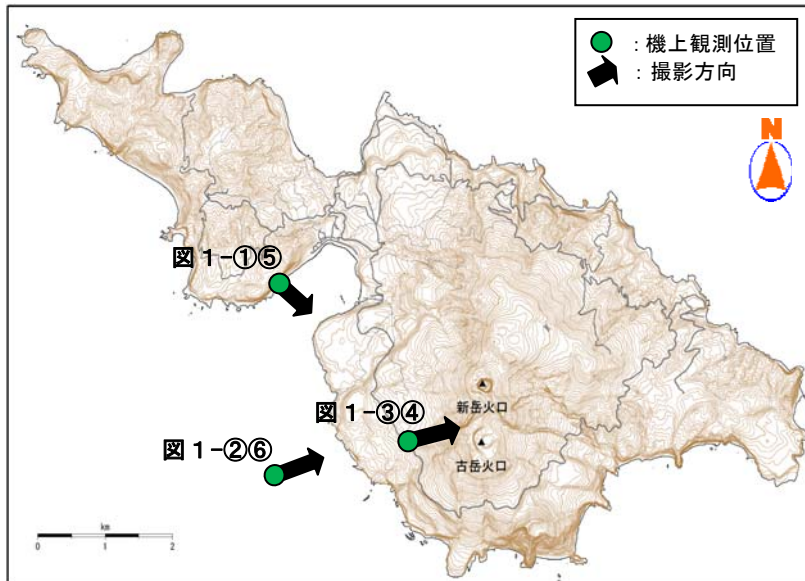


図2 口永良部島 観測位置及び撮影方向